豊後大野市のおうち・暮らしを考えるマガジン

Vol.01
2020.Winter

ぶんごHOME

Bungo Home

空き家問題について考える

全国の空き家は昨年の総務省の発表によると約849万戸。
過去最高の戸数である。

中には住むこともできない状態の空き家も多い。

それは豊後大野市でも深刻な問題となっているが、
増え続ける空き家を少しでも抑えるにはどうするべきなのか。

宅地建物流通センター局長の赤嶺さんにお話を聞いた。

宅地建物流通センター長
赤嶺茂光さん

ーずばり伺いますが、豊後大野の増え続ける空き家にどのような危機意識を感じますか？

豊後大野限らず全国的な危機ではありますが、「使えない空き家」が増えてしまっている事が大きな問題だと思います。
よくあるケースが、実家を離れたまま関東とかに家をもって妻子と住んでいて、親が亡くなった後も実家には戻らず空き家になっているパターンですね。しばらく空き家のままにしていて、年月が経って家を売ってしまおうと思い立った時にはもう家の価値が0になってしまっている。
そうしたら取り壊して土地を売るか、固定資産税を払い続けなくてはならない。親が亡くなって空き家になれば、その家の固定資産税は当然子どもが所有者として毎年払い続けるわけですが、家を壊して更地にするとその固定資産税は何倍にも増えてしまうわけです。
そうすると早く土地を売れればいいけれど、売れなかった場合は高い税を払い続けるか、家をちゃんと管理して早目に手放せばよかったという後悔が残るのみ…ですよね。

ー確かに、家は週1でも換気や管理をしないと、どんどん劣化していくといいますよね。

家って、人がいて10年は大丈夫でも、人がいなくて10年はアウトなんです。もし空き家になってしまったらその家の所有者はお金をはらってでも家を定期的に管理してもらうべきです。それでもね、3年が限度…だと見てますよ。状態の悪い家はどんどん価値がなくなります。
そうすると手放そうにも手放せなくなる。住むことができてはじめて家は価値が出ます。人が住めることが第1条件なんですよ。それができなければ…言い方は悪いですが「お金のかかる粗大ゴミ」なんですよね。

ーそうですよね。宝かゴミか…管理次第で全く変わってしまうのが怖いところ。中にはお家を貸したくても大切な荷物や仏壇を他の場所へ運ぶことができなくて貸せない・売れないという方もいらっしゃいますが、それも危険ですよね…。

物置状態は本当に危険ですね。窓を開けない・日の光が入らない…。床も壁もぶよぶよになり、シロアリも発生してしまう可能性が高い。定期的に窓を開けたり管理することは必須ですね。

ー豊後大野から状態の悪い空き家を少しでも無くすにはどのような方法があると考えますか？

それはやはり注意喚起をして一人ひとりが他人事と思わずに早目の対策をすることでしょうね。行政だったり、危機意識の高い近所でもいい。「いつか空き家になる」ことに目を背けずに、将来その家の税金を負うことになる子どものためにも早めにどうするのか、話し合ってほしいです。
「まだ大丈夫」は遅いですよ、としっかりと周りが注意喚起をして、所有者本人が動かないとはじまりませんからね。

ーそうですよね！私もこのフリーペーパーの最大の目的はそこにあるので、読んでくれた人が空き家になった時のおうちの事を少しでも考えるきっかけになってくれたら嬉しいなあと思います！　ありがとうございました。

空き家を放っておくとどうなるの？？

大切なおうちのこと。早目に考え対策をしておこう！

たいへんだ

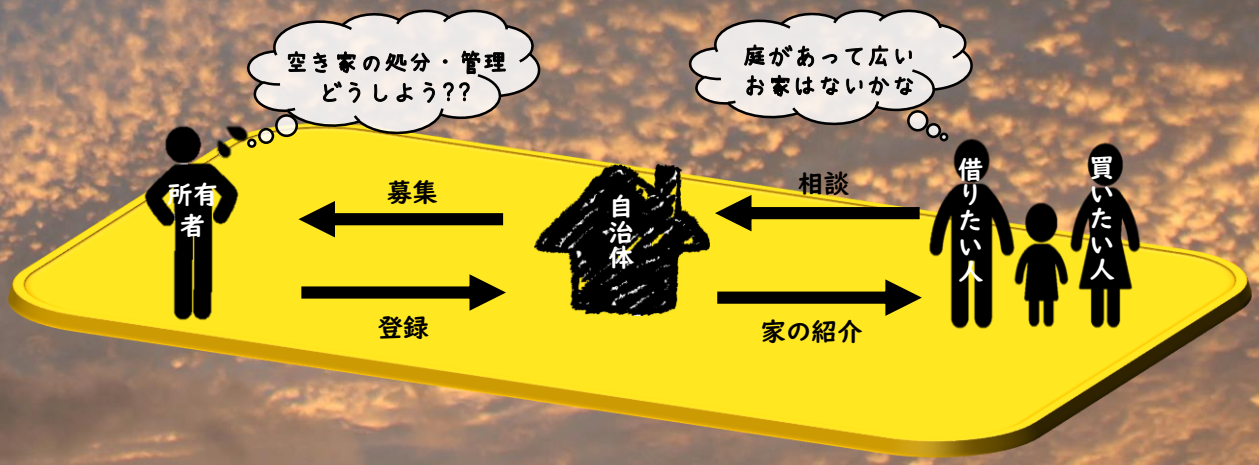
草木が伸びることで
隣家へ迷惑をかけたり
害虫が発生！

ごみの放棄・投棄の
被害にあうかも…

老朽化した窓ガラスや
ブロック塀が倒壊して
通行人に怪我を
させてしまうかも…

不審者の侵入や
放火等による火災の
可能性が高まる！！

空き家バンクを活用しませんか？



空き家バンクとは、空き家の所有者と空き家の利用希望者をマッチングするための仕組みです。

●詳しくはお問い合わせください●
豊後大野市役所まちづくり推進課 TEL/0974-22-1001

お試し滞在体験記

2019年11月。

秋晴れの清々しい季節に、東京都台東区から2組が
豊後大野市お試しモニターに来ました。
その滞在の様子をご紹介します。

お試し滞在施設（大化の家）

豊後大野市のお試し滞在をすることができる緒方町の大化にある施設。昔ながらの木造平屋建ての広い造りとなっており、地域の人と交流しながら実際に“ぶんごおおの暮らし”を体験することができる。

11月14日～11月21日滞在
小林 孝徳さん、希望さん、ゆめちゃん

ゆっくりとした温かい時間を感じる場所

東京都台東区の広報誌を見てこのお試しモニターに応募していただいた小林さんご家族。東京からの移動と長旅に0歳のゆめちゃんは大丈夫だろうか、という大人たちの心配もよそに、ゆめちゃんは始終ニコニコ。ご家族には始終ほっこりとした雰囲気が漂っていました。家族3人でたくさんの経験をしたいという想いのもと、豊後大野市内の様々な自然、店、文化財に触れ濃い時間を過ごされました。

また、日当たりの良いお試し滞在施設ではのんびり日向ぼっこをしたりと家族みんなでゆったりとした時間も十分に味わったようです。

充実した日々を過ごした希望さんは、「温かくてゆっくりとした陽だまりのような日常でした。」と優しい笑顔でゆめちゃんを見つめるのでした。

まるでフルーツ!?野菜の新鮮さと美味しさにびっくり

うまい！と夫の孝徳さんが声をあげたのは道の駅で購入した豊後大野市産のピーマン。肉厚で噛むほどに味が出てきて苦みも少なく、まるで「果実みたい」と感じたのだそう。他にも、しいたけやほうれんそう…と毎日豊後大野の野菜をふんだんに使った料理を夕食に並べて楽しみ、東京へ帰ったら「豊後大野の野菜ロス」になったほど。しかし、しっかりと道の駅で発送注文をしていた小林さんご家族は、届いてから1週間はさつまいも、大根、しいたけ、里芋など、たくさんの「安くて新鮮で美味しい」豊後大野の野菜を毎日味わったのでした♪

滞在スケジュール

<1日目>
移動・市の担当者との挨拶
<2日目>
地域おこし協力隊と移住者ツアー
<3～5日目>
道の駅めぐり・大分観光
<6日目>
地域おこし協力隊と観光ツアー
<7日目>
移動・帰宅

子どもの「ありのまま」を大切にした豊後大野の保育所も訪問しました★

移住者との触れ合いを通じて「ぶんごおおの暮らし」を知る

滞在中、豊後大野市のいくつかの町で移住者と交流した小林さんご家族。東京都の墨田区から移住し人気のパン屋さんをされている方、家族で農業をしながら体に心地よい生活を求め、それを提供する店を開いている方、お寺の住職をしながら地域づくりに尽力されている方…など、それぞれの移住者とのお話を通じて豊後大野市での暮らしに触れていただきました。「田舎の中にはよそ者を排除するような雰囲気がある場所もあると思うけれど、豊後大野にはそんな雰囲気を感じません。みなさん温かくて受け入れてくれて…“つながりの文化”があるんだなあと感じました。」と希望さん。「近い将来、田舎への移住を考えています。10年後に都会にいることは考えていないですね。移住の条件は雇用があること。今の仕事をしながらであれば、ネット環境の充実があることが条件だなと思っています。」と孝徳さんは移住についての考えを話してくださいました。「移住」に対する見方は人それぞれですが、まずはその地の事を知り、人を知ることがすべての第1歩なのかもしれません。

予定をみっちり立てて満喫！でもまだまだ滞在し足りない！

何かお試し滞在でお手伝いできることはありますか？と市側が聞くまでもなく、すでにみっちりとスケジュールを立てレンタルのスクーターでくまなく滞在を楽しんでいた篠原さん。
あらかじめお試し滞在施設を中心にGoogle mapで周辺を調査して気になる地点にたくさんピンを立てておいたというけれど、その地点は観光地のみならず、地域の知る人ぞ知るスポットばかり。
朝、起きてジョギングしながら気になる池、神社などを巡るなど、走って観光するスタイルは地域の人にとって衝撃的なものだったようです。大分県内の観光を挟みながら、豊後大野中を朝から晩まで9日間動き回り、それでも「まだ滞在し足りませんでした！」と笑顔の篠原さんにあっぱれ…！

雨の日は農業体験で野菜と地域に触れる♪

雨模様だどうしよう…と翌日の天気を見て4日目のスケジュールに悩む篠原さん。その時、地域おこし協力隊である後藤聡美隊員からお試し滞在施設の近くにある農家さんの所で農業体験をしないかというお誘いが。即決で向かった緒方町の農園にて、大根・さつまいも・かぼす等の選別・乾燥等の体験を行い、栄養たっぷりの農家のお昼ご飯も体験。「野菜の選別とか乾燥は、農家さんにとっては、当たり前の作業なのかもしれないけれど、私にとっては新鮮ですごく貴重な経験でした！」と笑顔で、雨の日の豊後大野滞在もしっかりと楽しんだようです♪

滞在スケジュール

<1日目>
移動
緒方町観光
<2日目>
朝地町観光
<3日目>
大分観光
<4日目>
農業体験
<5日目>
大分観光
<6日目>
祖母山登山
<7日目>
千歳ひょうたん健康マラソン10km参加・千歳ひょうたん祭り
<8日目>
摩崖仏巡り・稲積鍾乳洞
<9日目>
帰宅

祖母山ナイトハイクの翌日はマラソン大会で優勝!?

滞在6日目。篠原さんは日本百名山である「祖母山」の登山へ挑戦！
しかもそれは深夜から明け方にかけて登る日の出登山。夜の登山は装備と経験が必要とのことで、1人ではなく登山に精通した方と2名で。満天の星空やムササビを見て早朝の日の出を拝み、心が満たされたという篠原さん。アクティブな姿には驚かされるばかりですが…なんと翌日、「千歳ひょうたん健康マラソン」の10kmコースの一般女子の部で優勝をしてしまったのです！！
「地域の方の声援がほっこりと温かいマラソン大会で参加できて良かったです！また豊後大野に来ます！」と優勝トロフィーのひょうたんを手に笑顔いっぱいの篠原さんでした。

お試し滞在モニターレポートは、豊後大野市の移住定住促進ポータルサイトでも公開中！

ぶんごおおの暮らし手帖 検索 CLICK!

BUNGO MAN
～ぶんごおおの人を知る～

自然豊かな場所で
暮らしと仕事を楽しむ

豊後大野市清川町で人気のカフェを経営する小野さん。出身も同町だが、学生・社会人と東京で過ごし、その後Uターン。小野さんにとって豊後大野市、清川町はどのような存在なのだろうか。

小野光治さん
清川町在住

◎「水」と緑豊かな自然が最高！

　ずばり、ここでの暮らし最高だな～と感じるポイントって何ですか？？と、目の前に広がる美しい川を眺めながら小野さんに聞いてみると…
「**水**ですね。美味しくて、夏には気持ちよく遊べる水が近くにあるところが、ここに住んでいて良かったなと実感しているポイントです！たくさんの人に遊びに来てほしいですね～！」
　高校を卒業すると進学で大学、就職を関東で経験した小野さん。都会での生活ももちろん楽しかったそうだが、ふるさと豊後大野には体も心もリフレッシュできる大きな遊びのフィールドが広がっている。一度外に出たからこそ、それはより感じるとのこと。
　都会にはない自然遊びは子育てにも最高だという。そしてそれは「手作り」にあふれた仕事にも大きく繋がっている。
　パチパチという音と香ばしい香りの先にあったのは立派なピザ窯。父親と手作りで完成させたピザ窯で焼いたピザはお店の大人気商品でもある。また、ピザをはじめ調理をする際に使用する水は山の恵みである美味しい湧き水だ。
　美しい景観と美味しいごはん。そんな自然の恩恵をたっぷり浴びた小野さんの店は、訪れた人に幸せと豊後大野の魅力を伝え続けている。

◎「家」は人が集まることで生き続ける！

　木の優しい香りと温もりのあるお店の建物は、店内も綺麗で新しく、なんだか生き生きとした雰囲気がある。しかし実際はなんと築20年ほど経っているというから驚きだ。
　「カフェだけではなく、宿泊施設としてもこの家を提供をしています。海外のお客さんを中心に多くのお客さんがあちこちから来て賑やかですよ。」
　年間を通じてたくさんの人々が出入りをしているというこのおうち。大勢の人による空気の流れが、**家**の呼吸に良い影響を与え、家を明るくし続けているのかもしれない。

◎音楽は地域を熱くする！

　音楽活動をしている小野さんは、豊後大野市内の様々なイベントや祭りでも出演をする機会が多い。豊後大野市民による市民のための音楽を通したまちづくりを行う団体「Bungo Samurai Spirit」にも所属している。音楽を通じた地域づくりについて小野さんは言う。「音楽の世界は常にボーダレス。地域間の境界線を取っ払ってくれるんです。お互いの違いを認め合い、関係性を深く築くには、最強のツールなんです。」
　様々なカタチのある地域活性化。「音楽」という媒体は、一味違った地域の盛り上がりにつながるのではないだろうか。

ぶん語王道

Vol.01

どういう意味？？聞いたことのないワードだらけ…
移住者が驚いた言葉・面白いおおいた豊後大野の言葉をご紹介！

⚠注意⚠
豊後大野市は範囲が広く、さらに昔は藩の分かれていた地が合併されて誕生した市であるため、
「豊後大野でも使われるおおいたの言葉」というくくりとなっています！温かい目で見てくださーいね！！

しらしんけん

★意味：本当に、とても
★補足：「しんけん」とは強調する意味をもつ。
「しら」は「しんけん」をさらに強調する。

しいら

★意味：餡がはいっていない餅やまんじゅう
★類語：「しえ」、「しえっぽ」

とぶ

★意味：駆ける、走る

せちい

★意味：嫌だ、つらい
★強調：「せっちい！！」

ぶんホール

MIE

モチーフ：「ヘプタゴン」

豊後大野市のゆるキャラ、ヘプタゴンが3人（個？体？）もいるキュートなホール。豊後大野市に1カ所しかない貴重な一蓋！これを見つけた人は一日ハッピーになれるかも…（？）

INUKAI

モチーフ：「どんちゃん こんちゃん」

どんこで有名な犬飼町のキャラクターである「どんちゃん こうちゃん」の描かれた消火栓と仕切弁を発見。その可愛さに、思わずほっこりホールである。

★ぶんホール情報募集中★
あなたの町で、散歩しているとふと見つけたホールを教えてください！散歩中のエピソードも合わせて募集中です♪
お問い合わせ：s16ab085@gmail.com

ぶんごHOME
2019年　Winter Vo.1　2020年1月発行　発行：豊後大野市役所まちづくり推進課地域おこし協力隊　発行人：日淺紗矢香

お二人とも豊後大野市緒方町出身。
結婚してからはずっと今住んでいるおうちで暮らしてきました。
豊後大野市での暮らしについて、「こうしたいと思うことをできる生活だから好きです」と笑顔いっぱいで教えてくださいました。

★募集しています★

空き家に対する意見や悩み。
移住に関する相談・意見。
豊後大野で活躍している人の紹介。
本誌にて取り上げてほしいこと。
その他フリーペーパーに対すること。

↓↓↓コチラにご連絡ください↓↓↓
s16ab085@gmail.com（日淺）

編集者後記

この度は、本誌を手に取っていただきまして、誠にありがとうございます！
豊後大野市地域おこし協力隊のヒアサと申します。
現在、移住定住業務の中で空き物件対策をしておりますが、人口が減り続ける豊後大野市での空き家解決は大変難しいものがあると感じています。そこで、空き物件になる「前」に少しでもお家の管理対策を呼び掛けられないかと考え、フリーペーパーを手作りするに至りました。
同時に、移住定住促進のための発信も行い充実した内容にしていきたいと思っています。
少ないページ数・発行部数ではありますが、豊後大野市の「おうち・人・暮らし」の素晴らしさを何か一つでも、改めて気づくきっかけづくりをすることができれば幸いです。
今後もどうぞよろしくお願いいたします。

次号は2020年3月に発行予定！
★お楽しみに★

豊後大野市役所　まちづくり推進課
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場1200番地
TEL / 0974-22-1001　FAX / 0974-22-3361